

## 高齢者の蘇生中止

在宅医療にかかわるみんなが、正しく学び、  
最期まで希望が叶う地域を！

©へるす出版

はじめに

# 高齢者が意思に沿った人生を 最期まで歩めるよう、 地域を守るわれわれが正しく知ろう

太田祥一 Ota Shoichi

(医療法人社団親樹会恵泉クリニック院長)

蘇生拒否，この文字を見かけることが多くなった。現代では，具合の悪い人がいれば119番通報(救急要請)するのが当たり前である。つまり，社会のセーフティネットとして，あって当然のシステムになっている。昔は119番通報するにはそれなりの決心が必要であったように思われるが，それに比べ今は通報のハードルはさほど高くないのかもしれない。その意味からも，119番＝救命という意味が薄れているのかもしれない。本来であれば，蘇生を拒否している人のためにどうして119番通報するのか，ということ自体が難問である。慌てた，心肺停止かわからない，往診するかかりつけ医がいない，など多くの課題もある。時代とともに，個人の尊厳や意思が重視され，地域包括ケアシステムが進み，高齢者にかかわる人が増えたことにも関係があるかもしれない。

最近では，看取り救急，尊厳救急という言葉聞くこともある。本特集は，地域で高齢者にかかわる，医療者に限らないすべての人々が，避けては通れない人の最後期の一つである，心肺停止について詳しく学べるように，救急医療の最前線にいらっしゃる専門家に，心肺蘇生のすべてを解説いただいた。これを勉強してもなお，判断が難しい場合に，現在さまざまな地域で取り組まれている蘇生中止の手続きも網羅した。地域を守るわれわれ在宅医が，病院前救護体制や救急医療体制を熟知し救急隊を理解し，密接に連携を進めていくことが求められている。さらにこの内容を広く地域や，高齢者とその家族に正しく広めることで，意思に沿った人生を最期まで楽しく過ごせるような世の中になればと願う。